

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める 手立て	学校生活で起こり得る衣服のトラブル例を取り上げることで、 実践的な課題解決の方法を考える。

第1学年3組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 よりよい衣生活を目指そう

2 題材の目標

- (1) 衣服の着用と選択，手入れについて関心をもって課題に取り組み，衣生活をよりよくしようと
している。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- (2) 自分や家族の衣生活について課題を見付け，その解決を目指して自分なりに工夫している。
(生活を工夫し創造する能力)
- (3) 衣服の計画的な活用や適切な選択，衣服の材料や状態に応じた手入れの基礎的・基本的な技術
を身に付けている。
(生活の技能)
- (4) 衣服の計画的な活用の必要性について理解し，衣服の着用，選択，手入れについての基礎的・
基本的な知識を身に付けている。
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

生徒を取り巻く衣生活の環境は多様化し，著しく変化している。流行のデザインを低価格で提供する量販店の急増により，既製服の着用期間が短く，ファッション重視の傾向も見られる。その反面，T.P.O.に応じた着こなしや補修を重ねて衣服を大切に着用することへの関心は低い。さらに，家庭のライフスタイルの変容により，衣生活に関わる知識や技術を伝承する機会は減っている。日常的な洗濯は家族任せであり，難しい補修や手入れなども家族や専門家に委ねているのが現状である。

「C衣生活・住生活と自立」の衣生活においては，衣服の選択，着用，手入れについての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，衣服の機能についての関心と理解を深め，これからの生活を展望して，課題をもって衣生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

そこで，中学生が生活の自立を目指す中で，自分の衣生活が家族に支えられていることや身の回りの衣服を整えることの大切さに気付かせる。そのために，実践的・体験的な学習活動を通して，衣生活への関心を高めるとともに，習得した基礎的・基本的な知識や技術を生かして，自らの衣生活を快適で豊かにしようとする能力と態度を育てたいと考え，この題材を設定した。

(2) 生徒の実態

衣生活に関するアンケート（男 20名 女 18名 計 38名）

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の手入れの学習に関心はあるか。
とても関心がある 8人 関心がある 20人 あまり関心はない 7人 関心はない 3人 ・衣生活に関する学習を生かして家庭で実践する場合，自分ができることを書きなさい。（記述式）
アイロンかけ，洗濯，コーディネート，手入れ，購入，裁縫，たたみ方，布を使った製作 ・自分の衣服のトラブル（ボタンがとれた，汚れ，すそのほつれなど）では，誰が手入れを行うか。
家族 30人 自分 10人 クリーニング 6人 そのまま 1人（複数回答） |
|--|

衣服の学習への関心は高く，コーディネートや手軽にできる手入れは自分から実践している。一方でトラブルを自分で解決していない生徒や家族に任せてしまう生徒が多い。このことから，衣服の管理は主に家族が行うという意識が強く，技術的な難しさから自分で解決しようとする意欲には至っていないことが分かる。

(3) 指導観

本題材では，中学生が日常的に着用することが多い制服などを取り上げ，具体的な場面を想定しながら衣服の手入れが身近にできることを実感させる。また，体験的に習得した衣生活に関する知識や技術を定着させるとともに，それらを活用して自らの衣生活をよりよく工夫し，創造する力をはぐくみたい。そのために，個々の学習の成果をお手入れ帖（ラーニングジャーナル）に積み重ね，自分の考えをまとめたり，発表したりするなどの言語活動を充実させる。さらに，学習の成果の積み重ねを振り返る活動を通して，達成感や成就感を味わわせ，実感を伴った学習にしたい。

本時では，お手入れ帖を活用して，学校生活で起こり得る衣服のトラブルの解決策を考える。解決方法の提案を聞いて，自分の生活の中での実践が可能か，難しいかの意思表示をする。さらに，意思表示の理由を共有させることで，多様な解決の方法を知り，自分にもできることや工夫できることを実感させながら，ねらいに迫りたい。

4 学習計画 (12時間扱い)

次	時	学習内容	関意態	工・創	技能	知・理
1	2	衣服の着用について考えよう	○	◎		◎
2		衣服の手入れの方法を知ろう				
	1	日常着の点検をして適切な手入れについて知ろう	○			◎
	1	日常着の適切な手入れをしよう(繊維の種類と洗濯)				◎
	1	〃 (洗剤の働きとしみ抜き)			○	◎
	1	〃 (ブラシかけ, アイロンかけ, 収納)	○		◎	
	1	〃 (まとめ, 発表)【本時】	○	◎		
	1	日常着の適切な補修をしよう(まつり縫い)			◎	○
	1	〃 (ミシンでのほころび直し, スナップ付け)			◎	○
3	3	学習したことをもとに生活を豊かにする作品を作ろう	◎	◎	◎	○

5 本時の学習

(1) 目標

日常着の適切な手入れに関心を持ち、基礎・基本の内容を押さえて課題解決に取り組もうとしている。
(関・意・態 観察・ワークシート)

日常着の適切な手入れについて、道具や洗剤を使った簡単にできる方法を考え、工夫している。
(工・創 観察・ワークシート)

(2) 準備・資料

- ・提示用衣服・お手入れセット (各種洗剤, しみぬき棒, 洗濯ネットなど)・意思表示カード
- ・ワークシート (班, 個人)・プレゼンテーション用ボード・お手入れ帖 (ジャーナル)

(3) 展開

(・留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て 評価)

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
<p>1 本時の課題を確認する。 よりよい衣生活の手入れについて考えよう ~こんな時どうする?~</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お手入れ帖を振り返ることで前時までの学習内容を確認させる ・既習内容をもとに、衣服のトラブルの解決方法を考えることが本時の課題であることを知らせ、課題解決の意欲を高める。
<p>2 衣服のトラブル例に対して、班ごとに衣服の状況に応じた解決方法について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【衣服のトラブル例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャージ・ユニフォーム→泥汚れ ・制服(スカート・ズボン)→しわ ・セーター(ウール・アクリル)→汗 ・シャツ(織物・編物)→カレーのしみ </div> <p>(1) 実践的な解決方法を考える。 (2) 解決のキーワードを考える。 (3) プレゼンテーションを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校生活で起こり得る衣服のトラブル例を取り上げることで身近な問題としてとらえさせる。 ◎実物を提示することで、実践的な解決方法を導く手立てとする。 ・解決方法を話し合い、そのキーワードをもとにプレゼンテーションを行うことを知らせ、活動に見通しをもたせる。 ・提示用衣服, お手入れセット, 取り扱い絵表示, お手入れ帖を活用することを伝え、よりよい解決方法を考える手立てとする。 ・解決方法や衣服の手入れに関するキーワードが見つけれられない班には、お手入れ帖を振り返るように助言する。 ◎解決方法のキーワードを活用し、自分でも実践できそうな衣服の手入れを提案するためには、お手入れセットの活用が有効であることを助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>基礎・基本の内容を押さえたキーワードを用いて、解決方法を考えることができる。(関・意・態：話し合い, ワークシート)</p> </div>
<p>3 よりよい衣服の手入れについて考える。 (1) プレゼンテーションを行う。 (2) 各班の提案に対して、実践できそうか、難しそうかの意思表示をする。 (3) 意見の交流をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのトラブル例について2つの班が担当することで、素材に応じた手入れの違いについても気付かせたい。 ◎トラブルの場面ごとに、自分で意思表示を行わせることで、自分の生活での実践に結びつけて考えさせたい。 ◎各班の提案に対する意見の交流を通して、自分にもできる手入れの方法があることに気付かせたい。 ◎意見交流の中で必要があれば、実際に活用されている道具や洗剤, 簡単な手入れ方法を紹介することで実践の意欲を高めたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習内容をもとに、道具や洗剤を使って簡単にできる手入れの方法を紹介できている。(工・創：発表, ワークシート)</p> </div>
<p>4 学習を振り返り、自己評価を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをお手入れ帖 (ジャーナル) に記入させ、自分の課題を具体的に考えられるように指示する。 ◎これからの自分のできることを班で共有し、生活での実践意欲を高める。